

チャリティー企画写真展 「The secret 2017」

2017年11月15日(水)～12月10日(日)

	タイトル/コメント	作家名(敬称略)	作品
1	Cymbidium	鈴木光雄	
2	Lulu 横浜の街で幼い頃に片側の前足と後ろ足を失ったという彼女に出会った。その直向に生きる眼差しに心を奪われ何枚もシャッターを切った。また彼女に会いたい。	岡本尚也	
3	Flat Iron Building, Broadway and Fifth Avenue, New York City, 2015 象徴的な建物がもつイメージと現場で体感して得られるイメージと写真にすることで再構成されたイメージとが記憶され重なり混じりあっていく。そして、この写真に何かを見ているあなたにそのイメージは引き継がれる。	有地訓	
4	NYWTC ... 人に記憶はあやふやなもの。 街並みの記憶が無くなるのも驚くほど早い。 マンハッタン島の真ん中に立っていた世界貿易センタービルだって例外じゃないはずだ。 この写真を見てニューヨーク・マンハッタンの本当だった姿を感じて下さい。	渡辺達生	

- alt. (2017)
- 5 往来する波紋と反射が見せてくれる、物事の別の可能性。 高倉大輔 
- こ、こわくないぞ！
- 6 路地からピーピーと鳴き声が聞こえた。見ると3cmほどのチビがいた。上空では親鳥が心配して旋回している。巢から落ちたのだ。「大丈夫か」と声をかけると、キリッとした顔で強がった。このままでは離れられない。 阿部秀之 
- nude a 2017.
- 7 現在では少数派となってしまったフィルムカメラですが、銀塩のプリントにはスペックを超えた肌触りのような味があります。今回の展示の為に4x5インチのネガからビンテージのパライタ印画紙にプリントしました。 岡崎正人 
- The ETERNAL SPACETIME
- 8 地球上には悠久の時間が創造した証が多く存在する。20億年前に形成された大地を5億数千万年の時が刻んだ風景を実感できるのが長さ446km 幅16km 深さ1600mのGrand Canyon (大渓谷) 大高明 
- 石元泰博
- 9 写真界の巨人、石元泰博さん(1921-2012)。往時に愛用していたライカと同型機種でポートレートを撮影するというコンセプトだった。インタビュー中、石元さんと並んで座っていた奥様が「黒いカメラが好きなのよね」と一般的には珍品とされたライカM2のブラックボディを前にしながら話をされたことを思い出す。ストイックな写真家とされていた石元さんもカメラに関心がなかったわけではないようだ。 赤城耕一 
- Enter the Mirror
- 10 The secretに参加するのは4回目ですが、毎回作家の力量を問われる厳しい企画です。しかし、チャリティーであるからには、結果を出して少しでもお役に立てればと願っております。 中藤毅彦 

- ミステリーローズ
- 11 鎖国時代に遡る昔に渡来し、地域の趨勢によって隔離されたために、研究界に認知されていなかった出自不明の薔薇。小振りでも憐な姿に、古の粹人が愛でる様子を思い浮かべる。
- 浜崎さわこ
- 
- longs to be ...
- 12 まだ行ったことがないので、雑踏の街で想いを馳せています。
- こばやしかをる
- 
- It flows into Brienz lake
- 13 スイスのブリエンツ湖に注ぐ小さな滝を真上から眺め、吸い込まれそうになる不思議な感覚で撮影をした。滝は本来なら流れる様子を正面や横の角度から撮ることが多いが、俯瞰の姿もよいものだ。
- 織作峰子
- 
- 霧雨奇岩渓谷
- 14 木曾川の支流、阿寺川は美しいエメラルドグリーンの水が流れる渓谷で、奇岩でも有名です。角が取れて磨かれたような巨石がごろごろ転がっています。訪れた時の阿寺渓谷は、霧雨に煙る幻想的な情景に包まれていました。
- 川隅功
- 
- Fuji-san One sweet.#47
- 15 富士山を悪く言う人に会ったことはありません。日本人にとっての富士山は、一つのスイートルームのようなもの！というシリーズの中の一つです。
- テラウチマサト
- 
- 光条
- 16 カンボジア観光者にフランス人が多いのは平和の証と言える。その一方で美しい光条・上空からの眺めは人間の力によるものだ。美しさはそれだけで成り立つものではなく、その裏側や第三者として事象を捉えたい。写真の命は記録性にある。
- 武藤裕也
- 

街角

- 17 写真は光と影、世界の流行の最先端の街である“ニューヨーク”次々と高層ビルが立つビルの谷間で、ひっそりと生き延びる小さなビルを見つける。数々の荒波を乗り越え、時を経て頑張り続けるパワーを感じた。

佐藤仁恵



The Caribbean Wind

- 18 明け方、馬の蹄の音で目が覚めた。昨晚出会ったサルサを踊る陽気な老夫婦を思い出した。2015年に米国と国交回復。キューバがそのまま変わらないで欲しいと願った。そんな願いは旅人の勝手な想いなのだろうか。

葛西亜理沙



Sunflower

- 19 タクラマカン砂漠の外れにある、和田（ホータン）地区での一コマです。砂漠が広がり、町は砂に埋もれかかっています。訪れた9月は日中が40度以上になるけれど、夜は氷点下。水たまりが凍るほどの寒さです。思わず、バザールで綿入りの敷物を買ってしまいました。
郊外にでると、風の音しか聞こえないような静けさです。突如、子供の声が聞こえたので、その方向へ足向けると、仲良く遊ぶ3人の姉妹が…。不思議そうな顔で写真を撮る自分を見ていましたが、警戒されたり、無理に笑顔をつくらざる訳でもなく、ごく自然に写真が撮れたのは人間同士だからでしょうか。
その日は、穏やかに時が流れていきました。

藤城一朗



particles of light

- 20 昨年出版した「uunder glass」に掲載されている一枚で国内の温室に静かに存在する光たちを捉えた纏めたシリーズ。2枚人1組で右目と左目の視差を定着させる契機となった一枚でもあります。

伊藤之一



幸運が舞い躍る

- 21 蒸せるような湿気の中ジャンルを掻き分け道なき道を歩く。ようやく道が開けた時、太陽がジリリと射し照らし、みずみずしいマイナスイオンの風が吹いた。イグアスの滝に近づいてきた！細い砂利道を下ると、黄色い塊が目に見え、飛び込んできて、思わず駆け寄った。すると、一斉に黄色い蝶々が次々と飛び立った。それは未来に満ち溢れた希望の光にも見えた

山崎エリナ



- 22 Complexity and Simplicity
複雑さとシンプルさと

安達ロベルト



「emotion 静謐の余韻」#16

- 23 都市と人間の織りなす日常のありふれた風景を見つめています。
コンクリートで覆われた街にも「情的」な光景をふと垣間みる瞬間があります。
それは静謐で、とても美しい陰翳をともない、私の前を通り過ぎて逝きます。
- 24 影象
見慣れた光景から、日常性を削ぎ落としたとき、そこに見えるもの。
- 25 Linksland
- 26 dancing bubbles
ふるふるぶくぶく おどるパブルズ
- 27 無題
日常的にGRのハードモノクロームを愛用している
- 28 チューリップ
GRD4で野草を撮るのが好きです。GRD4は、草花の下から空に向けて撮れるコンパクトなカメラです。ありそうでなかなか見ることのない花の表情に癒されたり、元気をもらうのは素晴らしいことだと思います。
- 吉田正
- 野澤勝
- 岡嶋和幸
- 塩澤一洋
- Misha Erwitt
- 藤田一咲
- 
- 
- 
- 
- 
- 